

5

不妊治療と仕事の両立

不妊治療は、通院回数の多さ、精神面での負担の大きさ、通院と仕事の日程調整の難しさなどから、仕事との両立が難しくなり、離職している方も少なくありません。

不妊治療を受けながら安心して働き続けられる職場環境を整備するための制度をご紹介します。

Q1. 不妊治療は保険適用されるの？

令和4年4月から、人工授精等の「一般不妊治療」、体外受精・顕微授精等の「生殖補助医療」について、保険適用されています。

「生殖補助医療」については、採卵から胚移植に至るまでの一連の基本的な診療は全て保険適用され、患者の状態等に応じ追加的に実施される可能性のある治療等のうち、先進医療に位置付けられたものについては、保険診療と併用可能となります。

保険適用の概要や相談支援事業のご紹介、不妊治療と仕事との両立に関する支援策に関する資料集等は、厚生労働省のホームページをご参照ください。

●不妊治療に関する取組（厚生労働省HP）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/funin-01_00004.html



※令和4年4月に不妊治療が保険適用化されたことに伴い、「不妊に悩む方への特定治療支援事業」は終了しました。経過措置による申請受付は令和5年3月31日をもって終了しました。

Q2. 不妊治療を受けながら働き続けられる職場環境づくりとは？

現在、さまざまな企業で、労働者が不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりに取り組む動きが広がっています。

こうした取組は、離職の防止、労働者の安心感やモチベーションの向上、新たな人材をひきつけることなどにつながり、企業にとっても大きなメリットがあります。

厚生労働省では、職場内で不妊治療への理解を深めていただくために、不妊治療の内容や職場での配慮のポイントなどを紹介した「不妊治療と仕事との両立サポートハンドブック」や、不妊治療と仕事との両立を図る休暇制度の環境整備や利用促進等について紹介する「不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル」を作成していますので、ご参照ください。

●不妊治療と仕事との両立サポートハンドブック（厚生労働省HP）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11909000/001073887.pdf>



●不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル（厚生労働省HP）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11909000/001073885.pdf>

